



“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号 3階 電話 (098) 869-8711
2026年9月29日

各位

株式会社 おきぎん経済研究所

「第105回おきぎん企業動向調査」 (2026年7-9月期) 調査結果

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

・担当：上門

問い合わせ先：電話：098-869-8711

メール：oei-corp@okinawa-bank.co.jp

現場主義とお客さまからの信頼

第 105 回おきぎん企業動向調査（2026 年 7－9 月期）調査結果

～県内（地域・業種別）の経営環境と業況感～

I. 調査概要

- 本調査では各企業の業況感や経営状況項目などについて、企業経営者の主な判断（当期実績、来期見通し）を景気動向指数 DI として取りまとめる四半期調査です。

【調査時期】 2026 年 8 月中旬～9 月中旬

【調査対象】 県内企業 577 社回答

【調査方法】 WEB アンケート調査

【調査内容】 ①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い
⑦雇用 ⑧設備・その他投資需要

—おきぎん DI とは—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変（変わらない）」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお願いいただき、各割合を表したものです（本レポートでは「悪化・低下・減少」はマイナス表示を使用）。

雇用に関しては、「過剰・適正・不足」でお答えいただき、「不足」はマイナス表示を使用。

① 「好転・上昇・増加」＋「不変（変わらない）」＋「悪化・低下・減少」＝100%

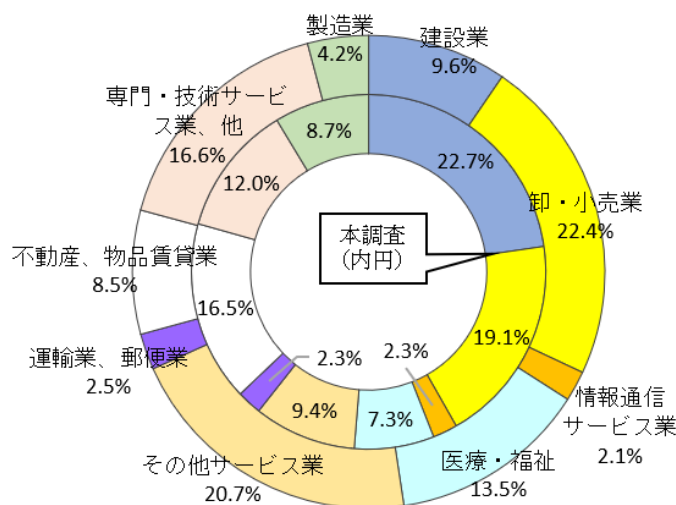
② DI（景気動向指数）＝「好転・上昇・増加」の割合（%）－「悪化・低下・減少」の割合（%）

従って、DI がプラスなら景気が良い（または上昇見込み）、マイナスなら悪い（または下降見込み）、と捉えます。

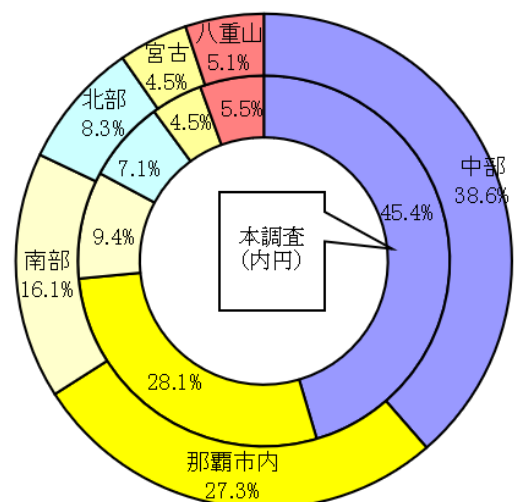
➤ 調査対象企業の業種・所在地構成

本調査の業種構成を県内事業所データ（令和 6 年経済センサス-基礎調査）と比べると、【建設業（本調査では土木・建築業）】はサンプリング数が多く、【その他サービス業（宿泊、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）】はサンプリング数が少なくなっています。

県内の産業別事業所数の構成（外円）
本調査の回答事業所数の業種構成（内円）



県内の事業所数所在地の構成（外円）
本調査の事業所数所在地の構成（内円）

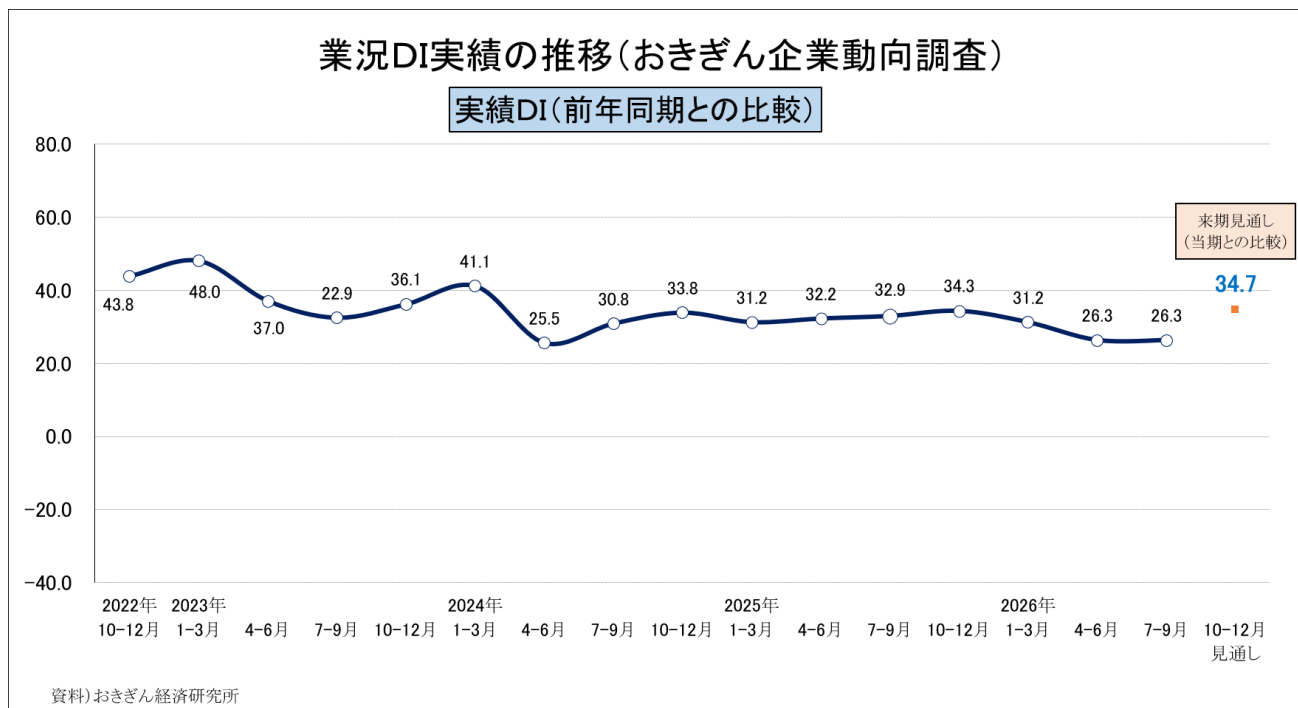


資料) 総務省・経済産業省、当行

II. 調査結果（総論）

- 当期の業況 DI は **26.3**（前年同期比）となり、20 期連続でプラスとなりました。来期の業況見通し DI は **34.7**（当期比）となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。一方で、業種別では改善幅に差がみられ、仕入単価の上昇や人手不足などが一部業種の採算を下押ししています。業況 DI は引き続き高い水準で推移しています。

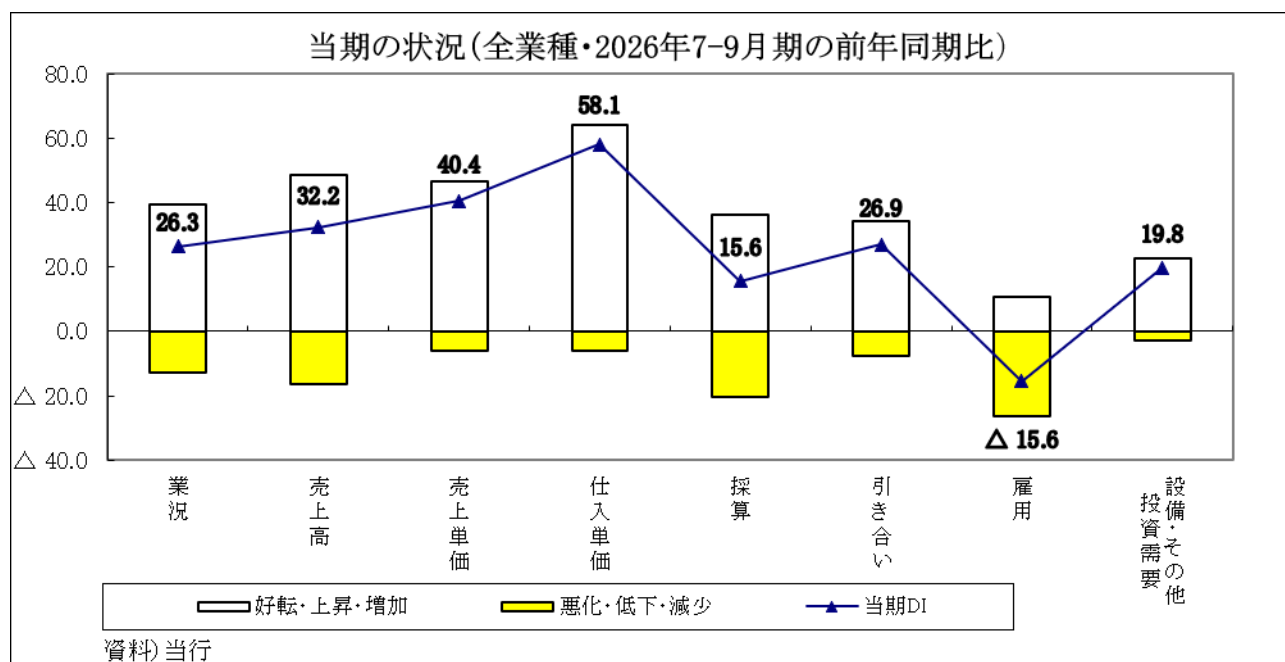
【業況DIの推移】	2025年			2026年			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期見通し
項 目	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前期比DI
全 業 種	32.2	32.9	34.3	31.2	26.3	26.3	34.7
製 造 業	19.4	20.8	38.1	44.4	30.0	24.0	36.0
土 木 業	17.6	32.4	36.1	29.0	21.7	24.0	16.0
建 築 業	23.9	39.7	35.2	40.7	26.7	27.4	28.3
卸 売 業	26.3	26.7	42.9	10.8	30.8	21.0	27.4
小 売 業	32.7	35.9	18.9	24.4	21.7	18.8	33.3
情報通信サービス業	0.0	50.0	63.6	27.3	16.7	30.8	53.8
医療・福祉	27.6	16.2	△ 5.6	32.4	28.2	21.4	57.1
その他サービス業(宿泊・飲食等)	45.2	58.3	40.0	29.1	32.9	29.6	44.4
運輸業、郵便業	45.5	18.2	44.4	14.3	23.1	15.4	38.5
不動産業、物品賃貸業	37.7	27.0	42.5	31.9	23.1	33.7	34.7
専門・技術サービス業、他	37.7	29.0	33.3	33.3	21.1	29.0	31.9



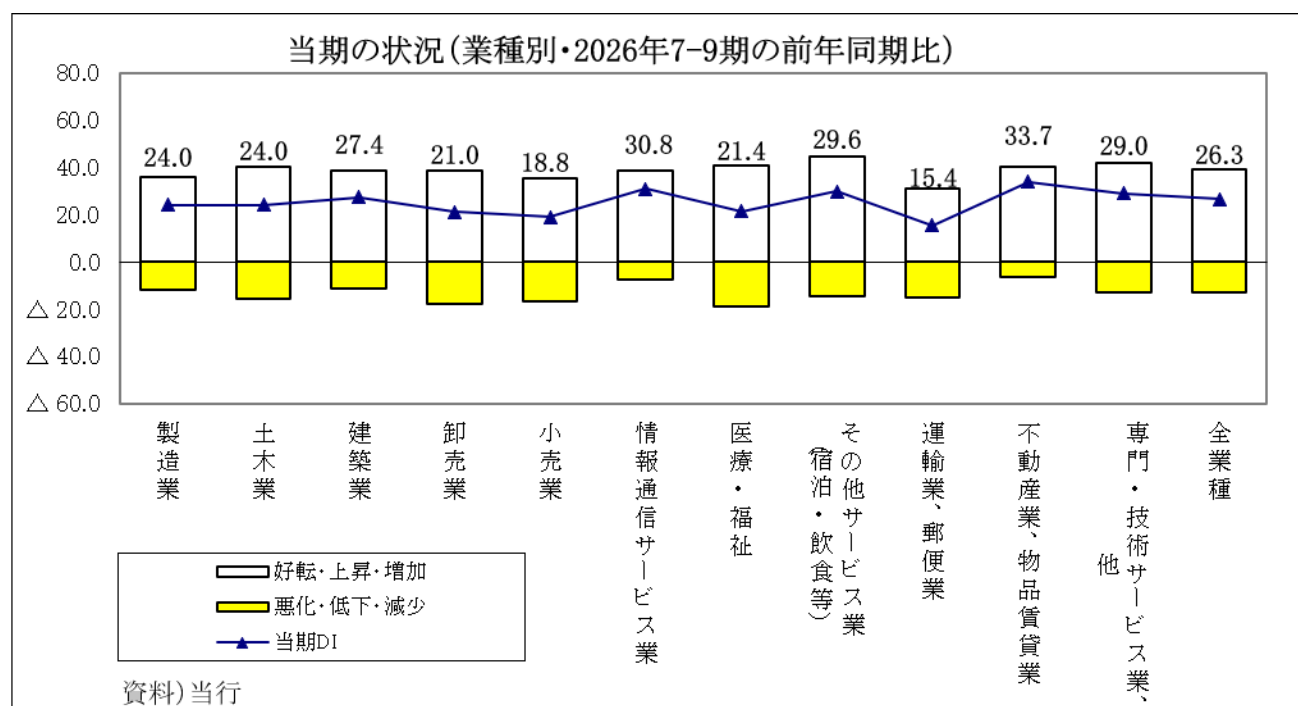
※「2026 年 10-12 月期（見通し）」**34.7**については、今期（2026 年 7-9 月期）との比較であり、前年同期との比較ではありません。

1. 当期の状況（2026 年 7-9 月期の前年同期比）

- 当期の業況 DI は **26.3** となり、業況は改善しています。項目別では、売上高（32.2）や売上単価（40.4）などがプラスとなりました。一方で、仕入単価（58.1）の上昇が続いていることから、採算（15.6）は他の項目と比べて低い水準となっています。また、雇用（△15.6）はマイナスとなっており、人手不足が続いています。

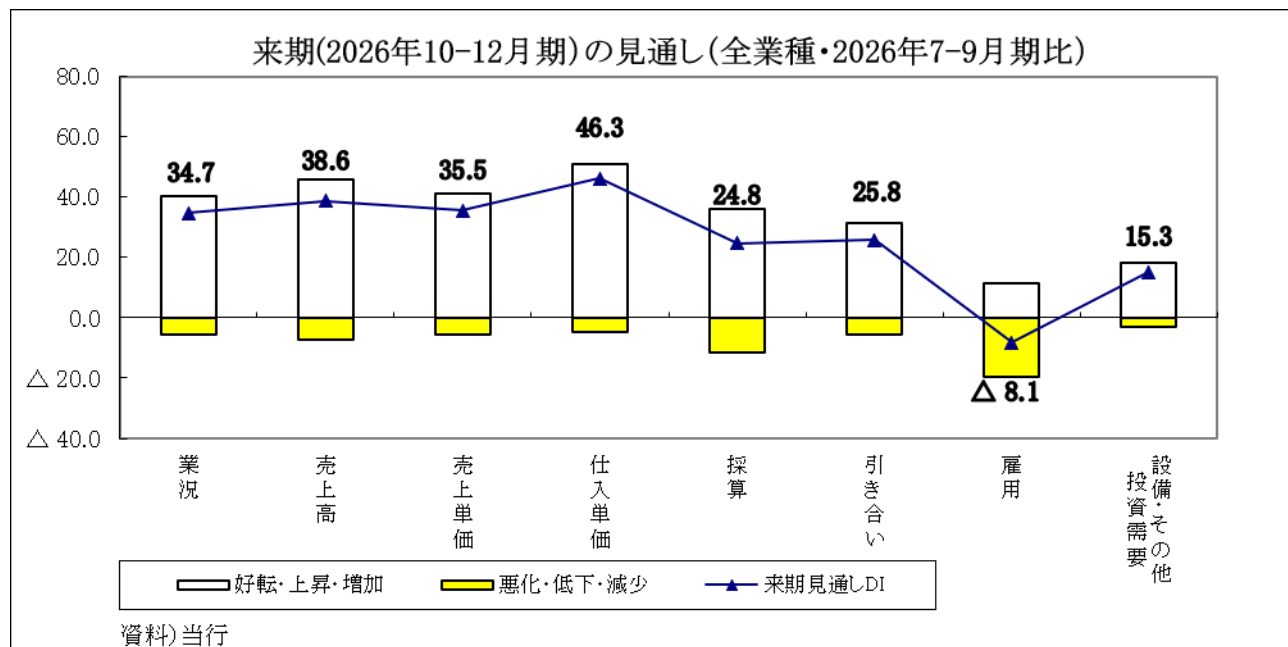


- 業種別では、【不動産業、物品賃貸業（33.7）】、【情報通信サービス業（30.8）】、【その他サービス業（宿泊・飲食等）（29.6）】などでポイントは高くなりました。全業種プラスとなっており、好調な業況がうかがえます。

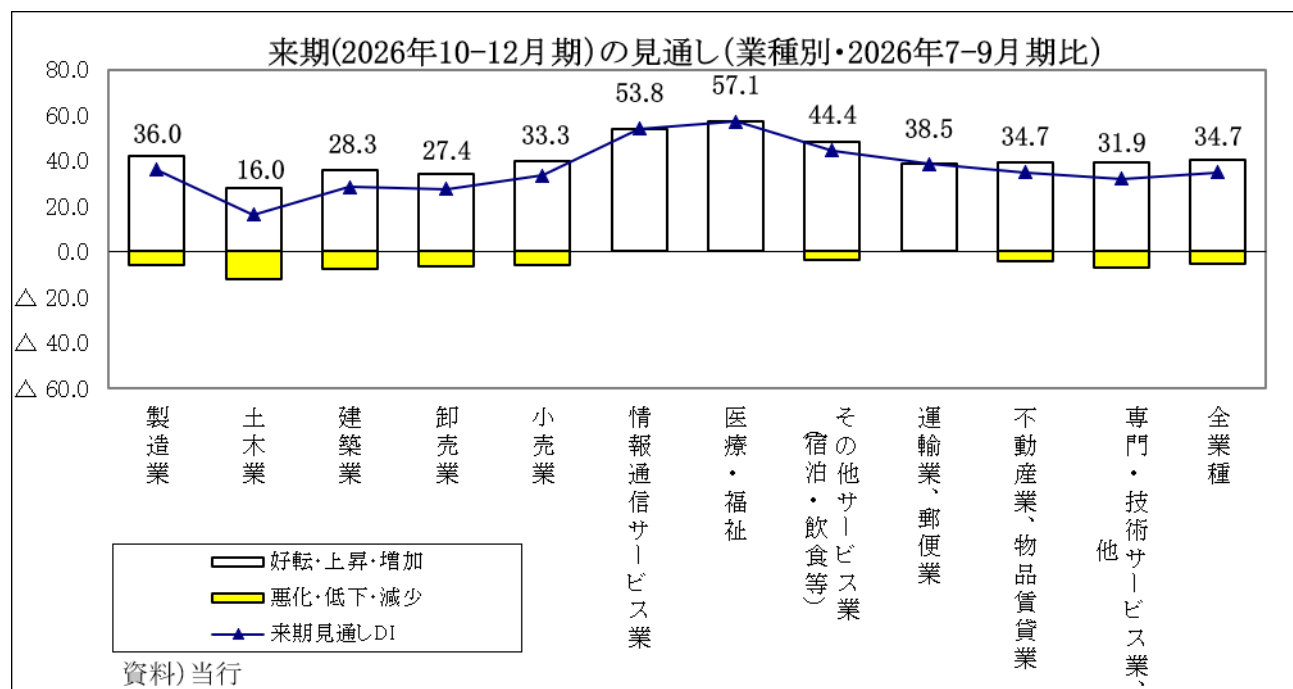


2. 来期の見通し（2026 年 10-12 月期の当期比）

- 来期の見通し業況 DI は **34.7** となり、引き続き業況改善が見込まれます。項目別では、売上高（38.6）や売上単価（35.5）などで改善が見込まれる一方、仕入単価は上昇が続く見通しです。また、雇用（△8.1）はマイナスとなっており、人材不足が続く見通しです。

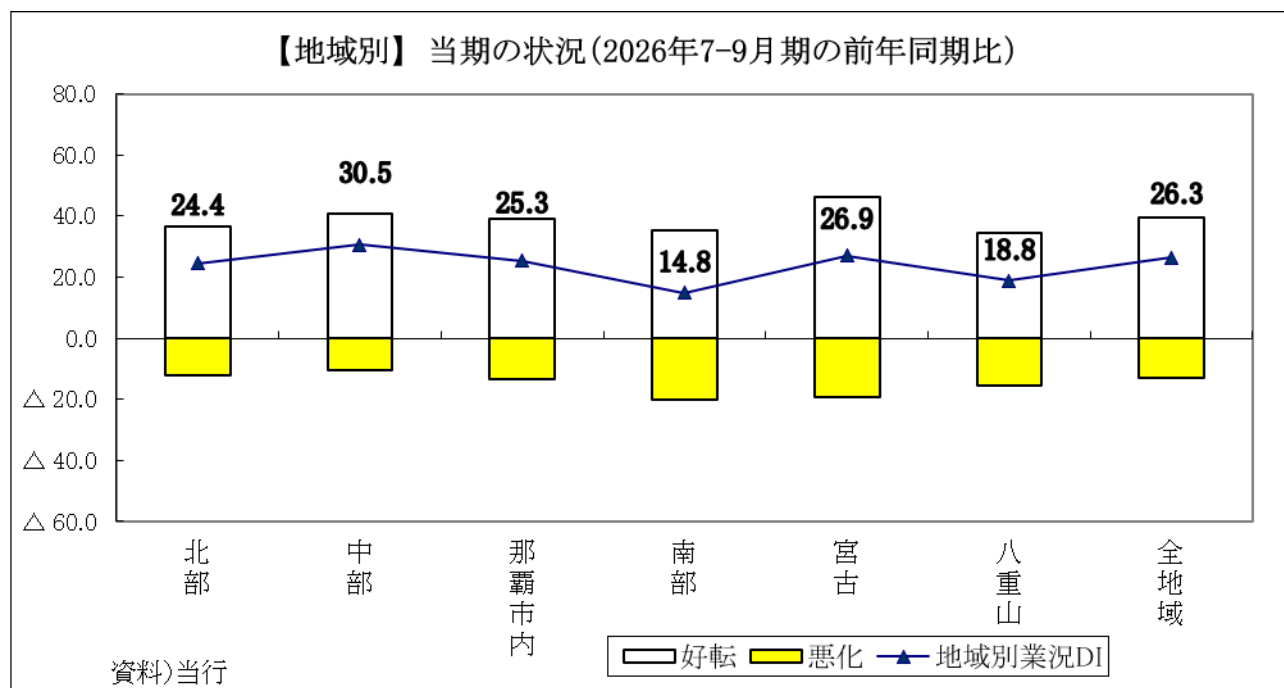


- 業種別では、全業種でプラスとなりました。【医療・福祉（57.1）】は報酬改定などを背景にポイントが高くなっています。また、【情報通信サービス業（53.8）】や【その他サービス業（宿泊・飲食等）（44.4）】では、引き合いの増加や売上単価の引上げ予定などにより、業況改善を見込む事業者が多くみられます。

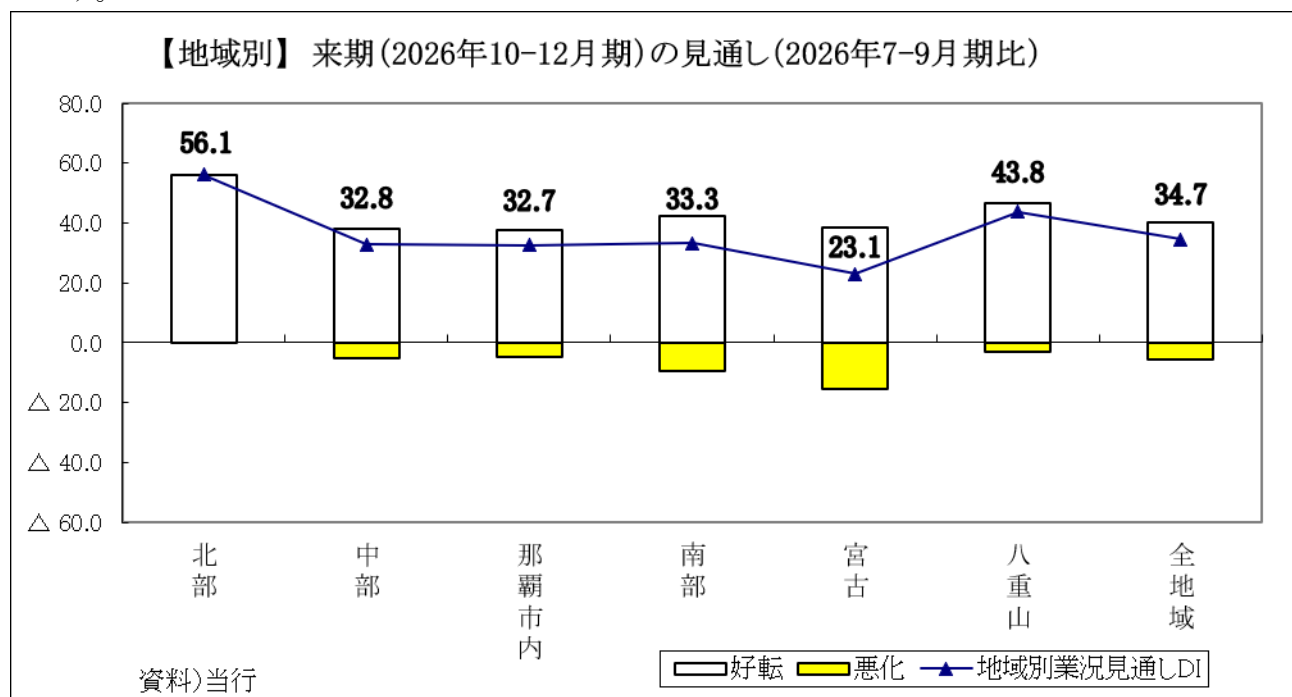


3. 地域別の業況 DI

- 当期の地域別業況 DI（前年同期比）では、中部（30.5）が最も高くなりました。建設関連工事の受注増加や、不動産業における売上単価・引き合いの増加などからポイントが高くなっています。



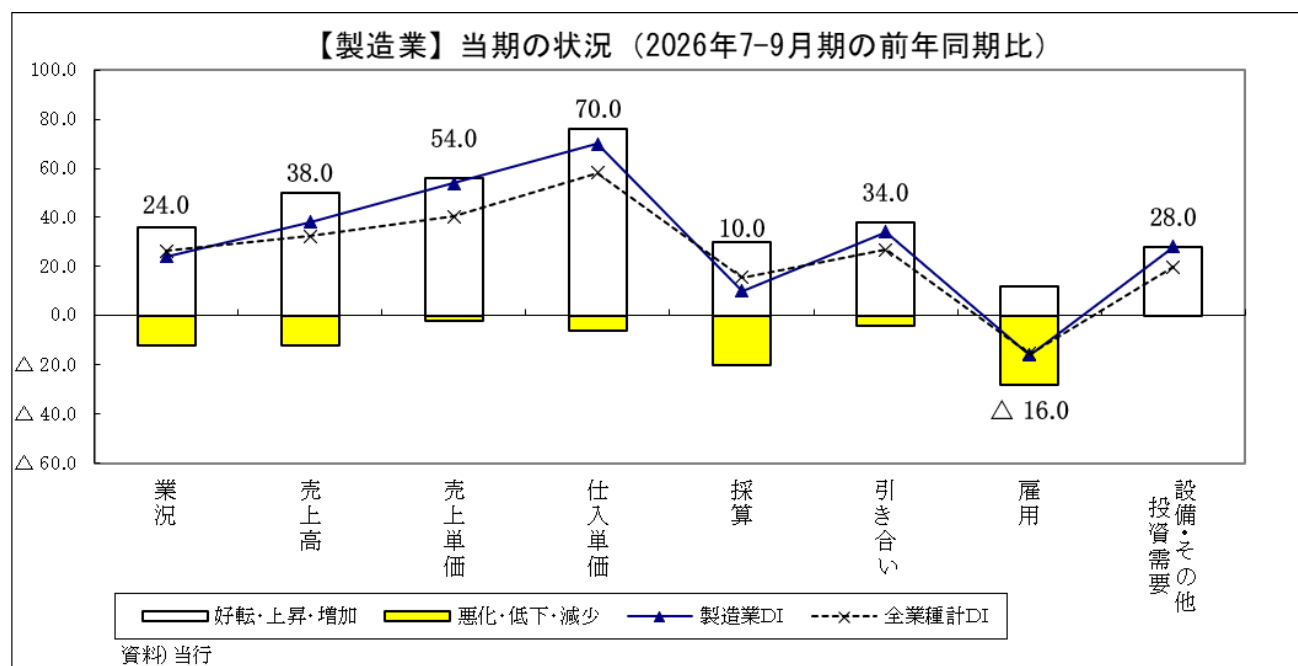
- 来期の地域別見通し業況 DI（当期比）は、全地域で改善が見込まれます。なかでも北部（56.1）は、公共・民間工事の受注増加見込みなどにより、他地域と比べてポイントが高くなっています。



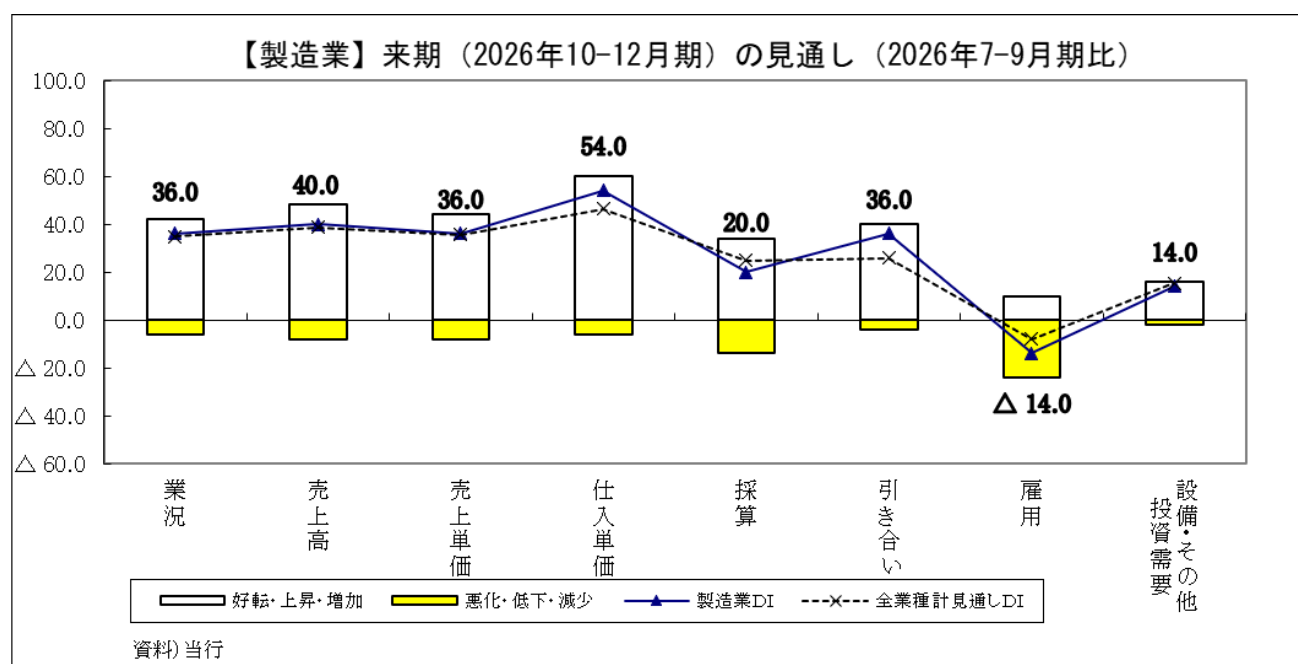
Ⅲ. 調査結果（各論）

1. 製造業（回答企業：50 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **24.0** となりました。売上高（38.0）、売上単価（54.0）、引き合い（34.0）は改善しているものの、仕入単価（70.0）の上昇が大きく、採算は全業種平均を下回りました。

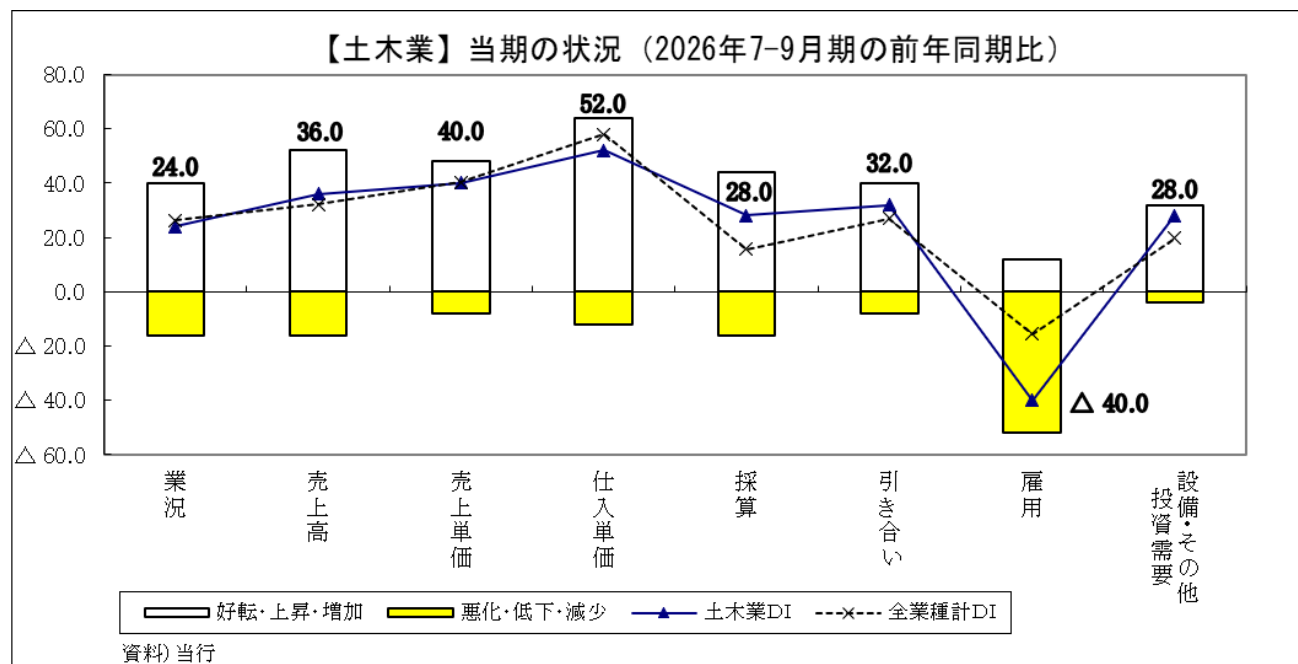


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **36.0** となりました。価格転嫁による売上単価の上昇や引き合いの増加を見込む事業者が多くみられます。一方で、仕入単価は引き続き上昇の見通しです。

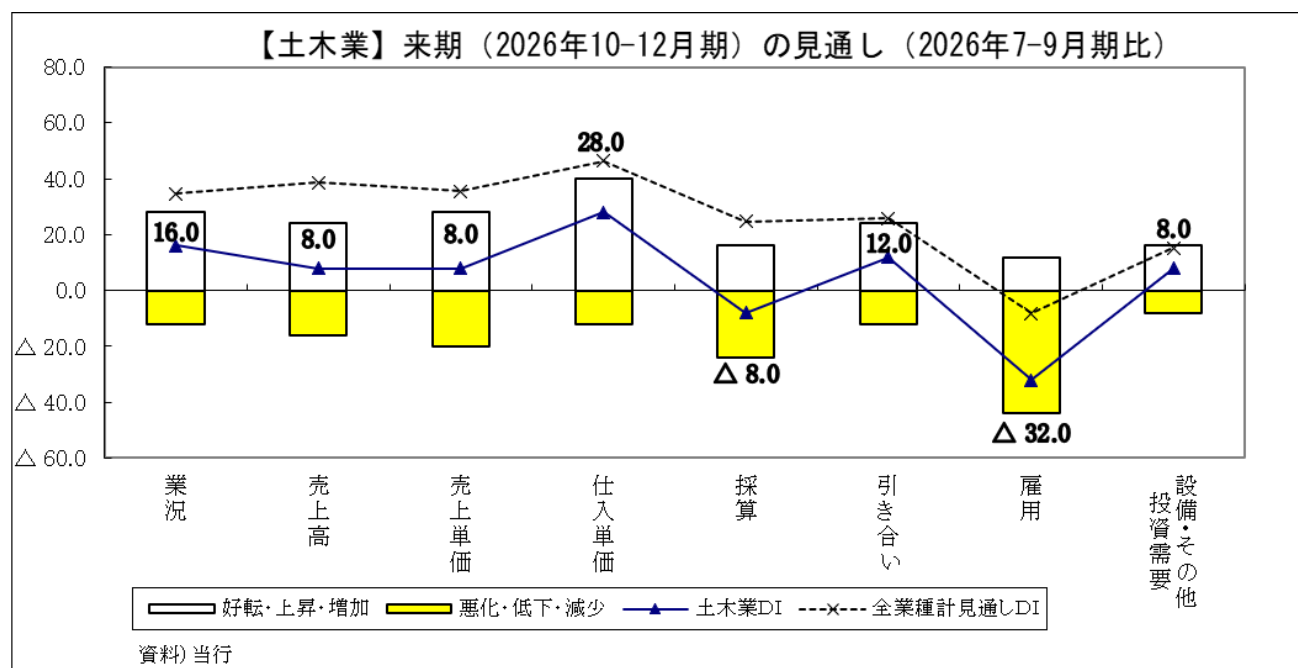


2. 土木業（回答企業：25 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **24.0** となりました。公共工事の受注増加により売上高（36.0）が改善した事業者がみられる一方、建設資材価格の高騰による仕入単価（52.0）の上昇や、雇用（ $\Delta 40.0$ ）の人手不足などから、採算が悪化した事業者もみられました。

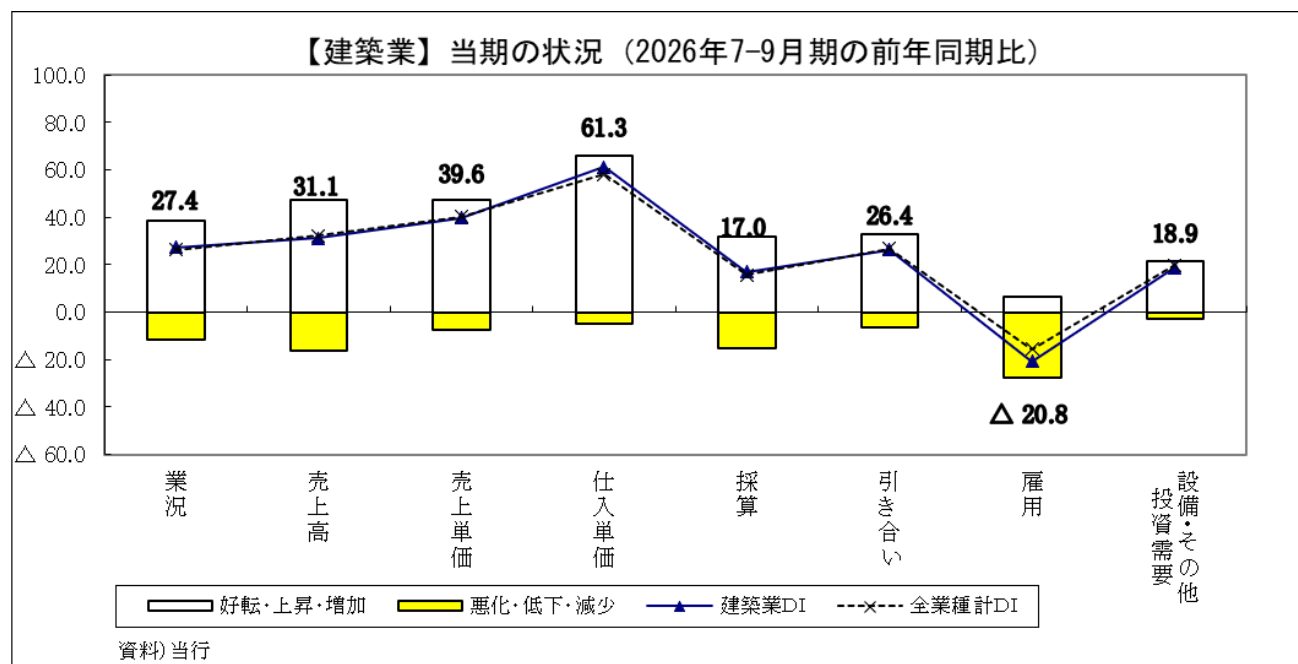


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **16.0** となりました。仕入単価（28.0）の上昇や、雇用（ $\Delta 32.0$ ）の人手不足が続く見通しであり、採算悪化を見込む事業者もみられます。

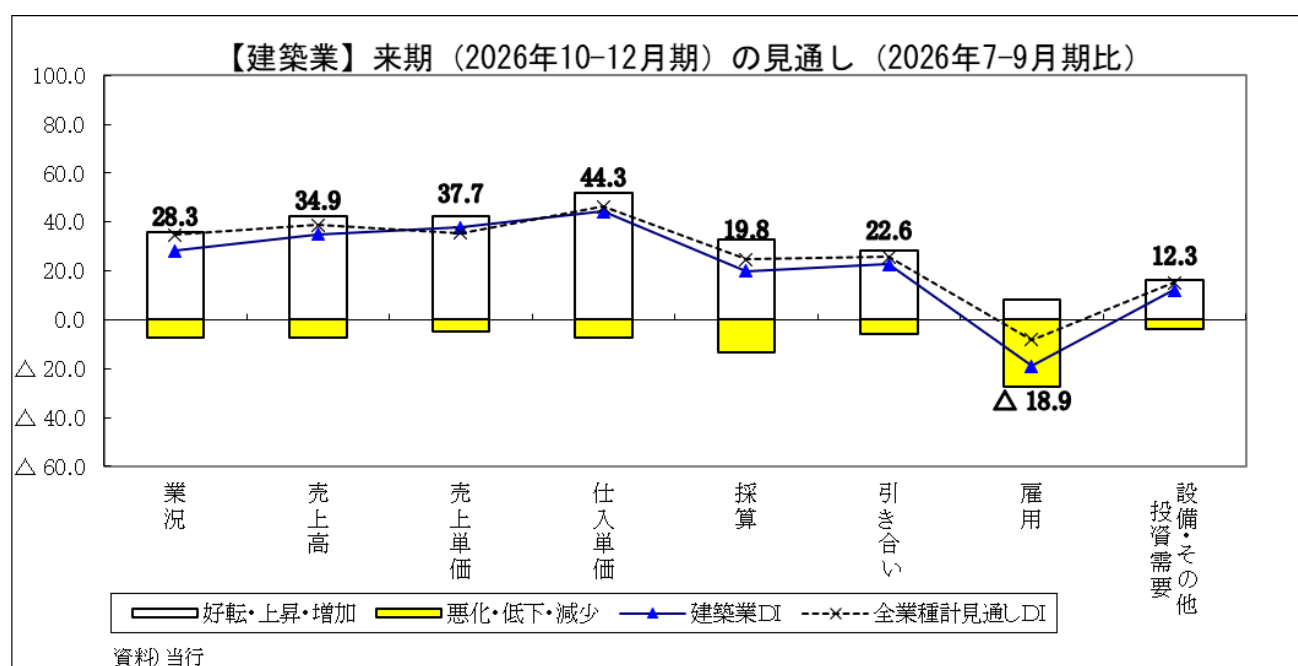


3. 建築業（回答企業：106 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **27.4** となりました。引き合い（26.4）や売上単価（39.6）の増加などにより、売上高（31.1）は改善しています。一方で、仕入単価（61.3）は資材価格の高騰を背景に上昇しており、雇用（ $\Delta 20.8$ ）の人手不足などにより採算が悪化した事業者もみられます。

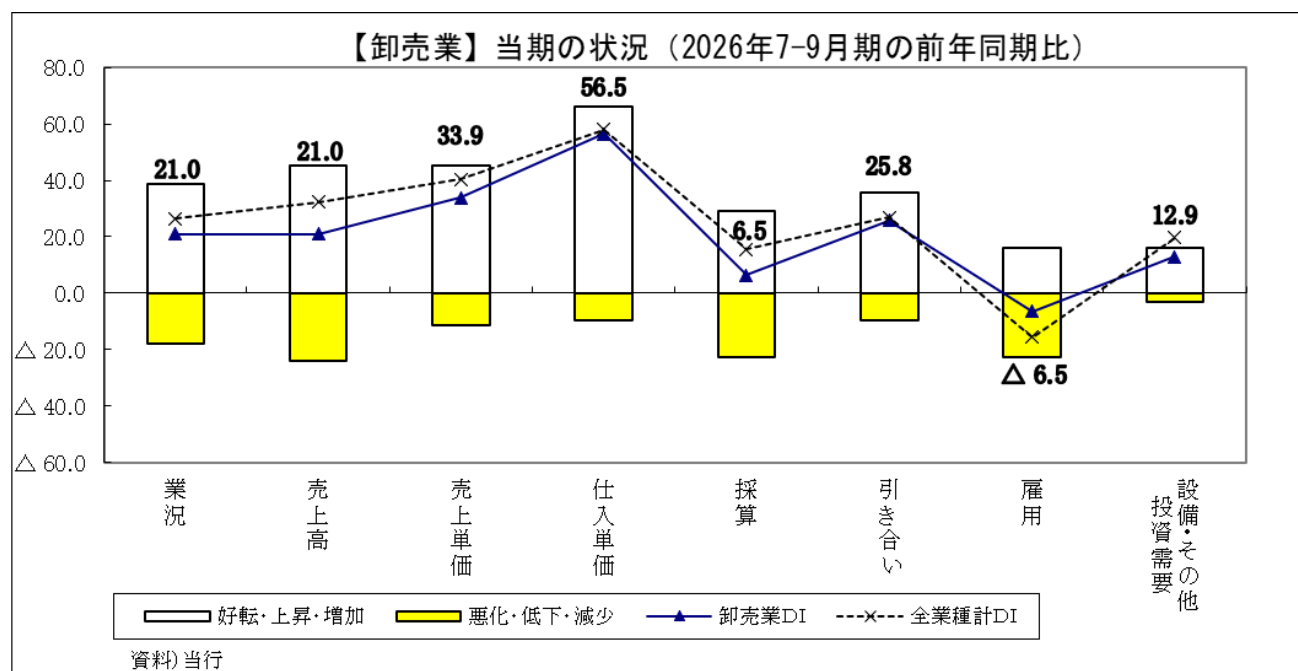


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **28.3** となりました。受注増加や売上単価の引上げなどにより、採算改善を見込む事業者が多くみられます。一方で、仕入単価（44.3）の上昇や資材の在庫不足、人手不足が続く見通しであり、業況悪化を見込む事業者もみられます。

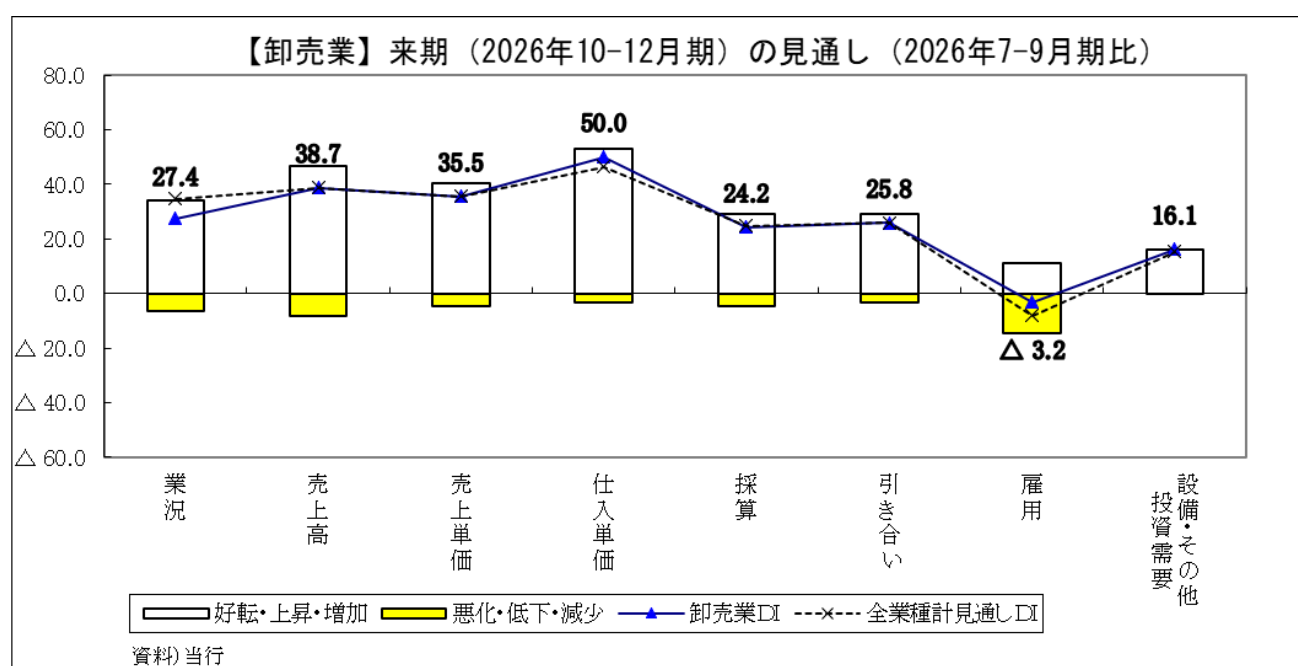


4. 卸売業（回答企業：62 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **21.0** となりました。価格転嫁による売上単価（33.9）の上昇や引き合い（25.8）の増加などから、売上高（21.0）は改善しています。一方で、中東情勢の悪化や天候不良（台風）などの影響により、在庫不足や仕入コストが上昇し採算が悪化した事業者もみられます。

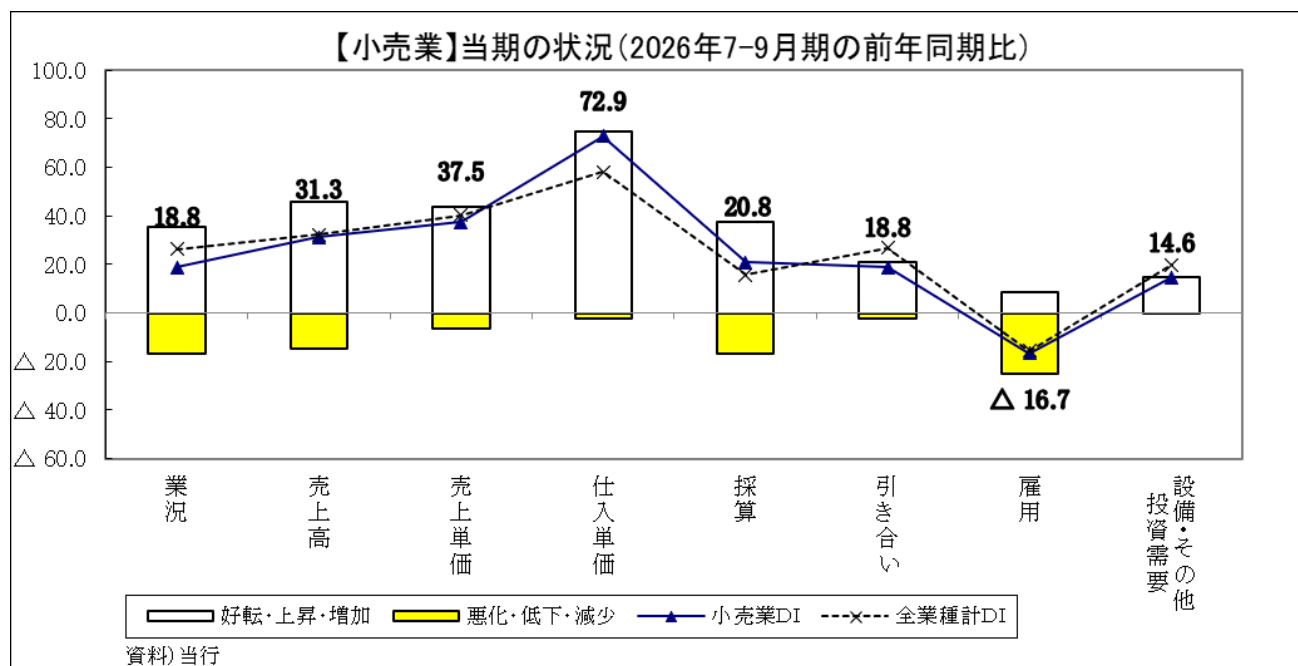


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **27.4** となりました。引き合いの増加が見込まれるほか、価格転嫁を継続する事業者が多くみられます。一方で、仕入単価（50.0）は引き続き上昇する見通しです。

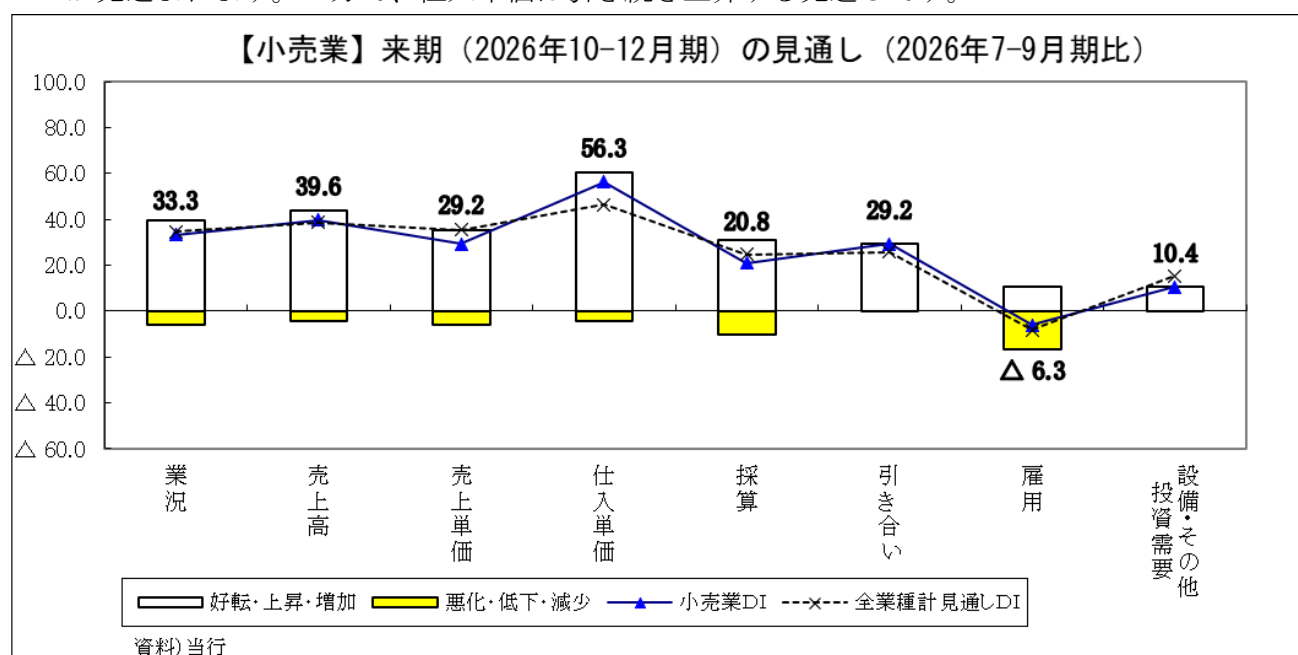


5. 小売業（回答企業：48 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **18.8** となりました。観光客数の増加などを背景に、売上高（31.3）や売上単価（37.5）は改善しています。一方で、仕入単価（72.9）の上昇に価格転嫁が追い付かず、採算が悪化した事業者もみられました。また、雇用（ $\Delta 16.7$ ）はマイナスとなっており、人手不足が続いています。

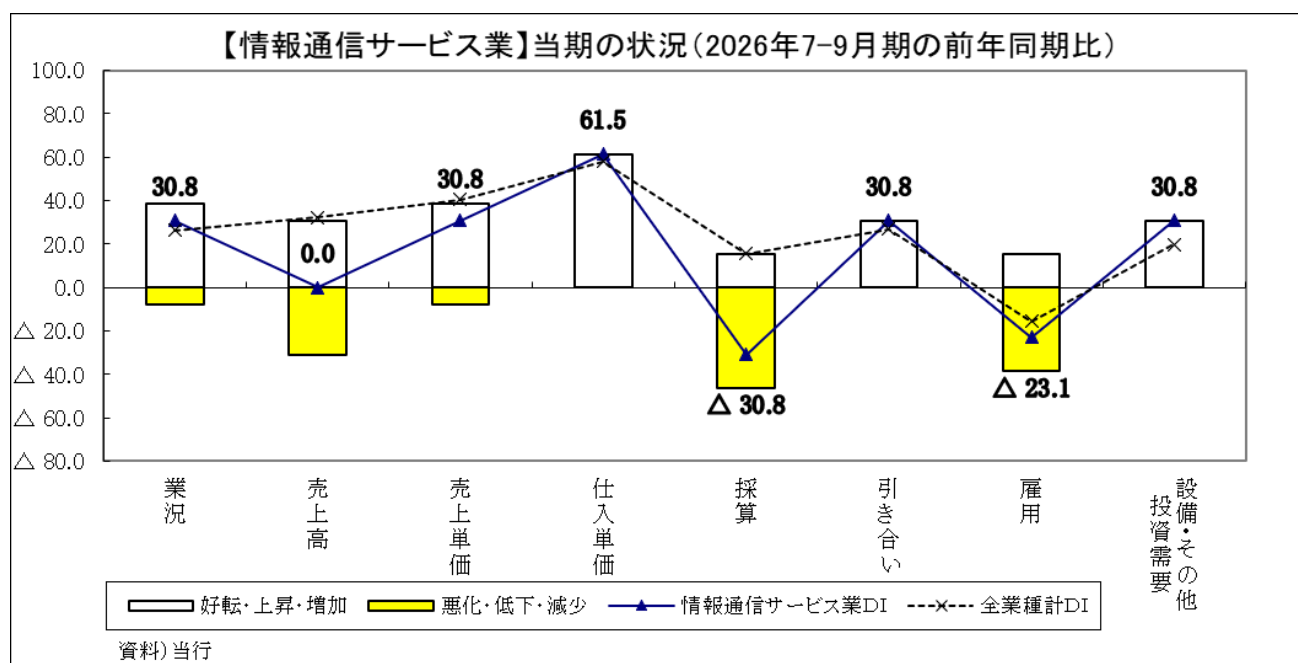


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **33.3** となりました。観光客数の増加見込みや継続的な価格転嫁の動きにより、売上高（39.6）や売上単価（29.2）は高いポイントとなっており、業況の改善が見込まれます。一方で、仕入単価は引き続き上昇する見通しです。

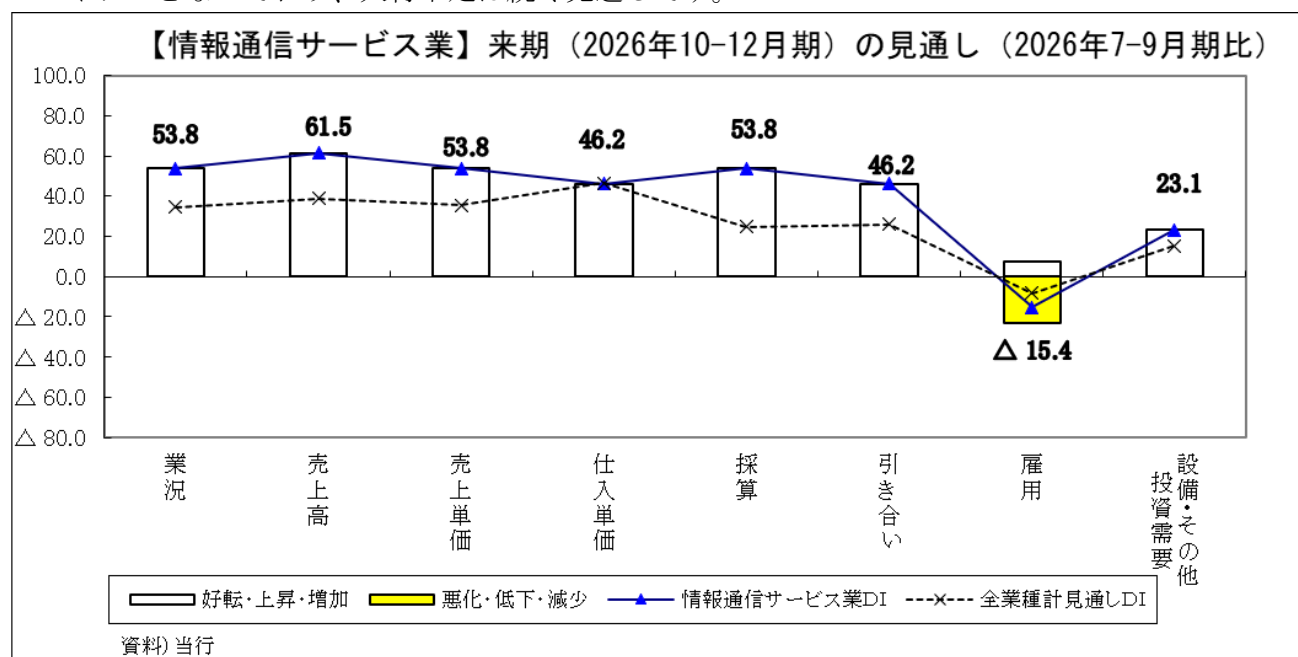


6. 情報通信サービス業（回答企業：13 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **30.8** となりました。業況は改善しているものの、雇用（ $\Delta 23.1$ ）の人材不足などの影響により、採算が悪化した事業者もみられました。

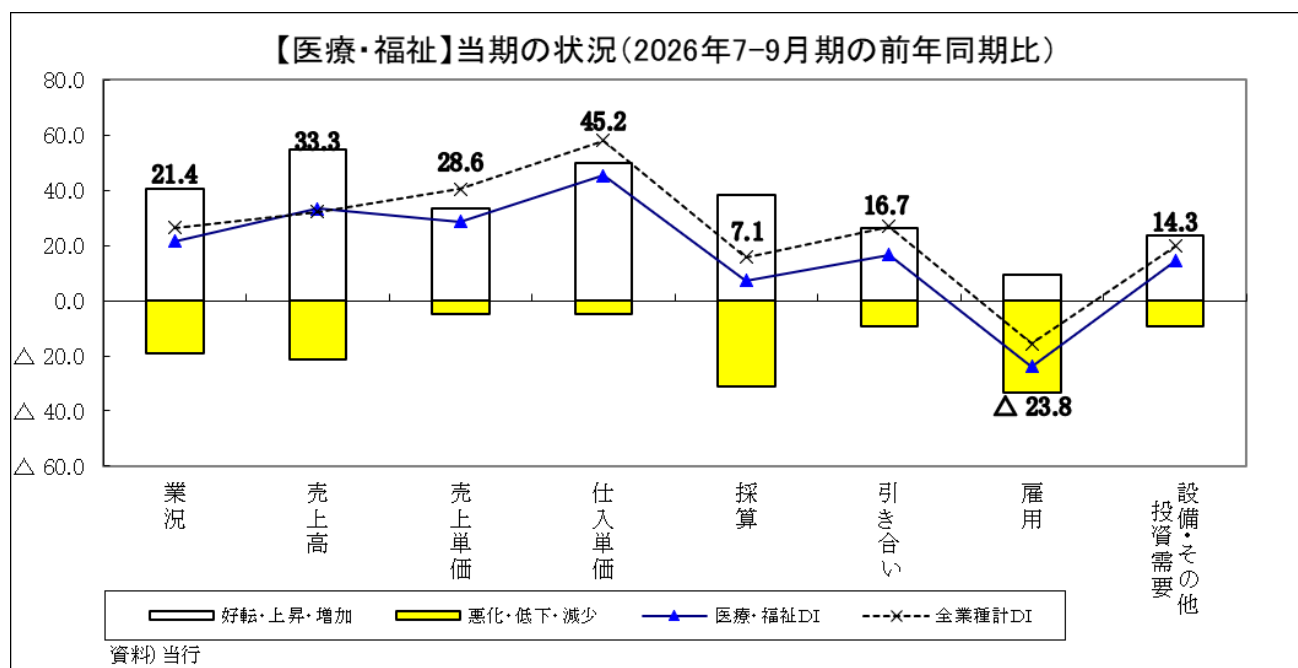


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **53.8** となりました。引き合い（46.2）の増加や受注単価の引上げ予定などにより、採算改善を見込む事業者が多くみられます。一方で、雇用（ $\Delta 15.4$ ）はマイナスとなっており、人材不足は続く見通しです。

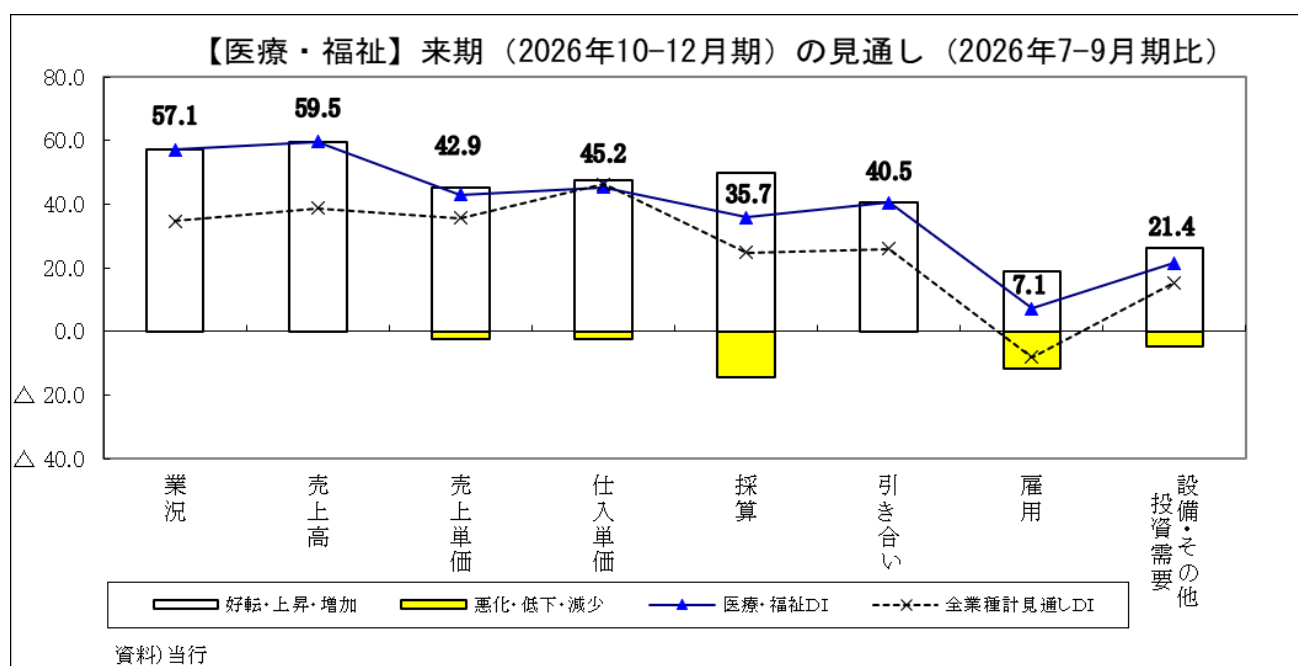


7. 医療・福祉（回答企業：42 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **21.4** となりました。利用者の増加や診療報酬の改定などを背景に、採算の改善がみられました。一方で、雇用（ $\Delta 23.8$ ）はマイナスとなっており、人手不足が続いています。

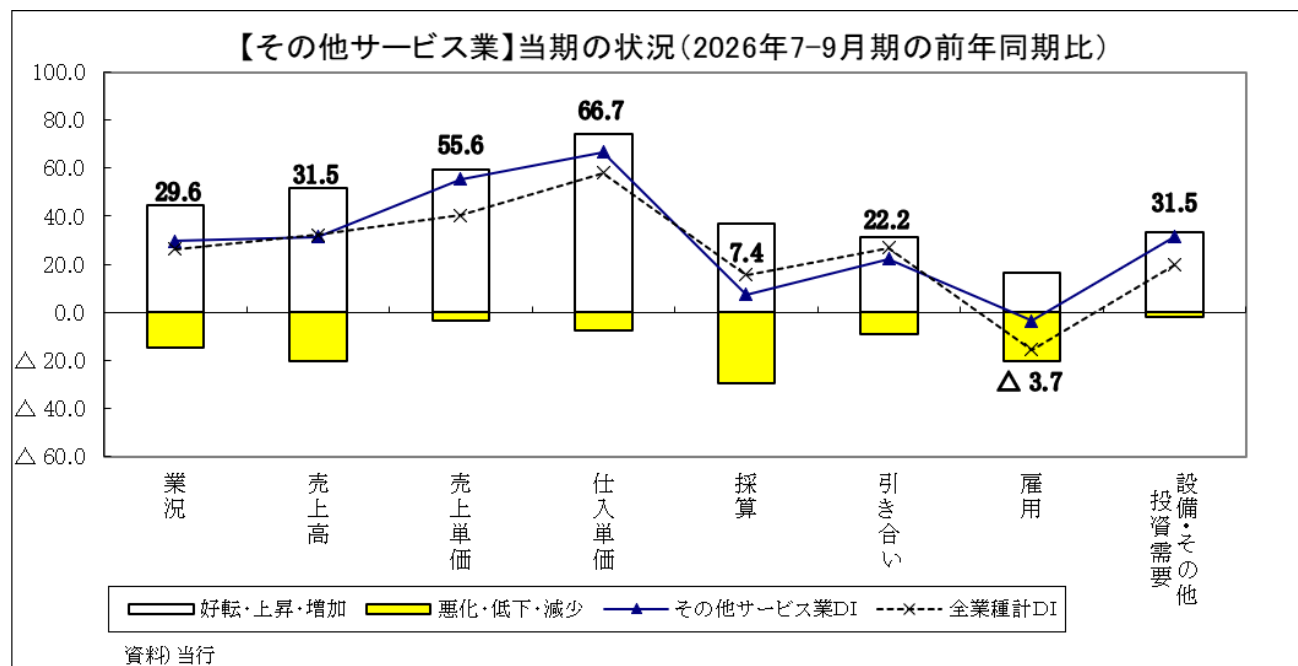


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **57.1** となりました。診療報酬の改定や利用者の増加見込みなどを背景に、売上高（59.5）や売上単価（42.9）は改善が見込まれ、採算改善を見込む事業者が多くみられます。また、雇用（7.1）は改善する見通しです。

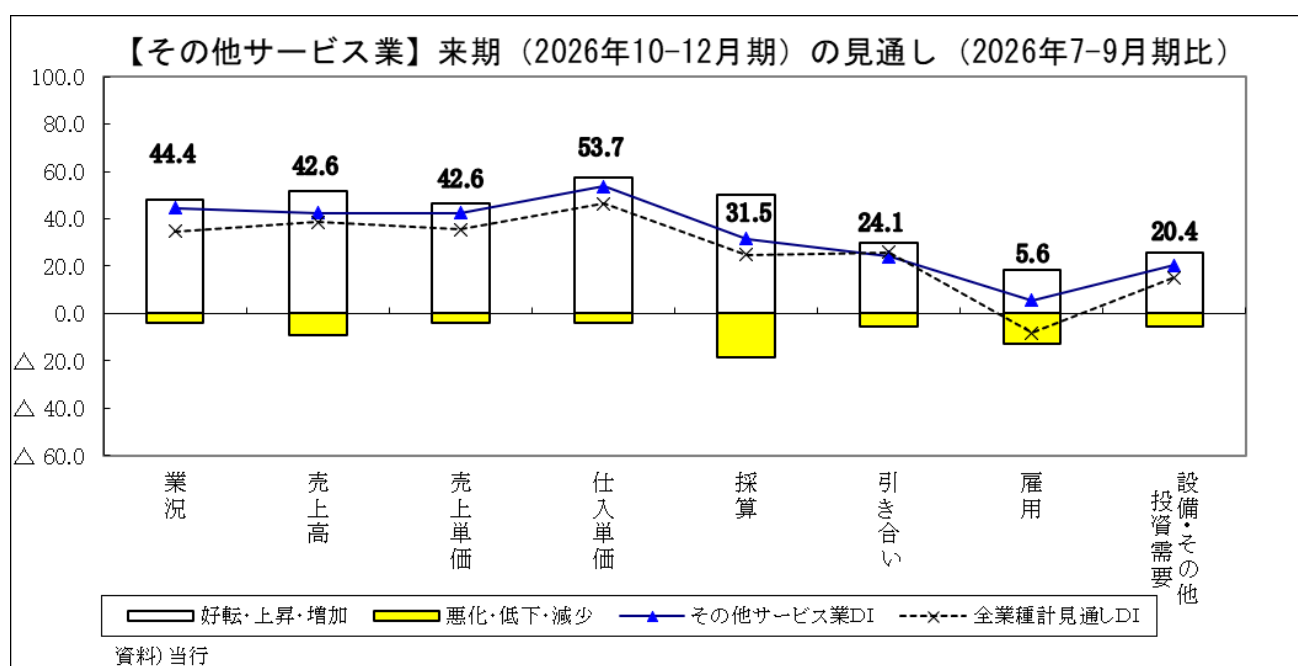


8. その他サービス業（ホテル、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）
（回答企業：54 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **29.6** となりました。売上単価（55.6）の上昇などにより、売上高（31.5）は改善しています。一方で、天候不良（台風）などの影響により客数が減少し、採算が悪化した事業者もみられました。

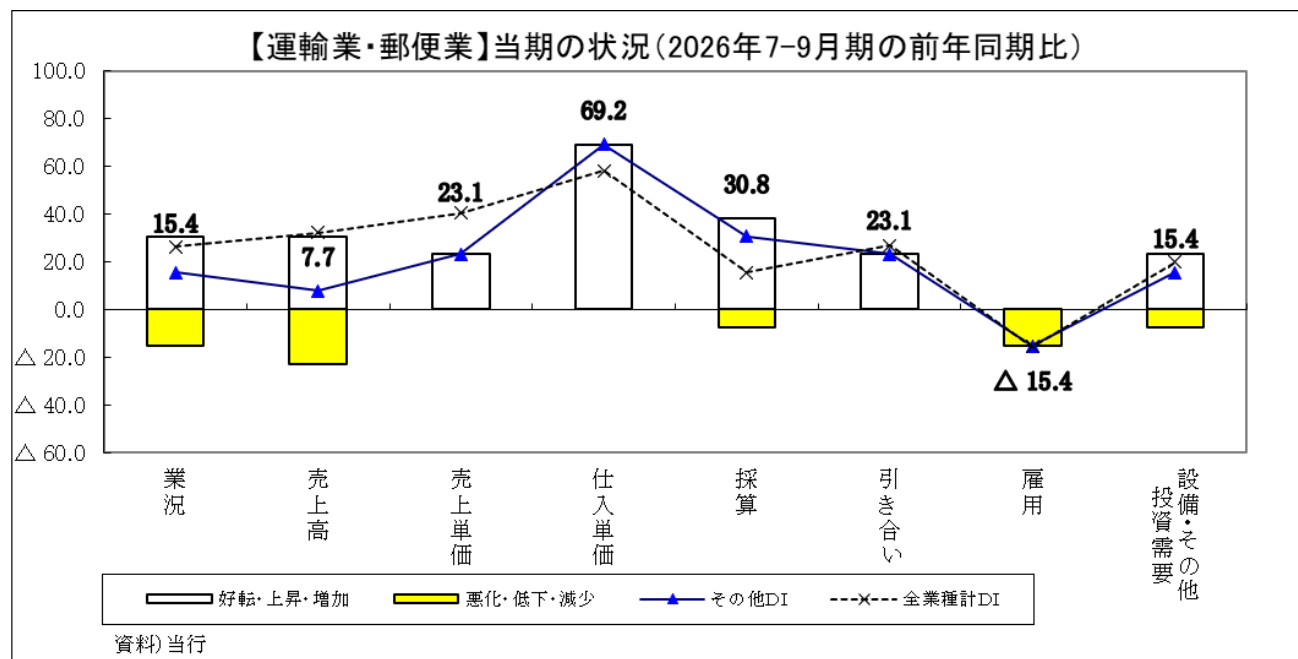


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **44.4** となりました。観光客数の増加や売上単価の上昇を見込む事業者が多く、採算改善が見込まれます。また、雇用（5.6）は新規採用の予定などから改善する見通しです。

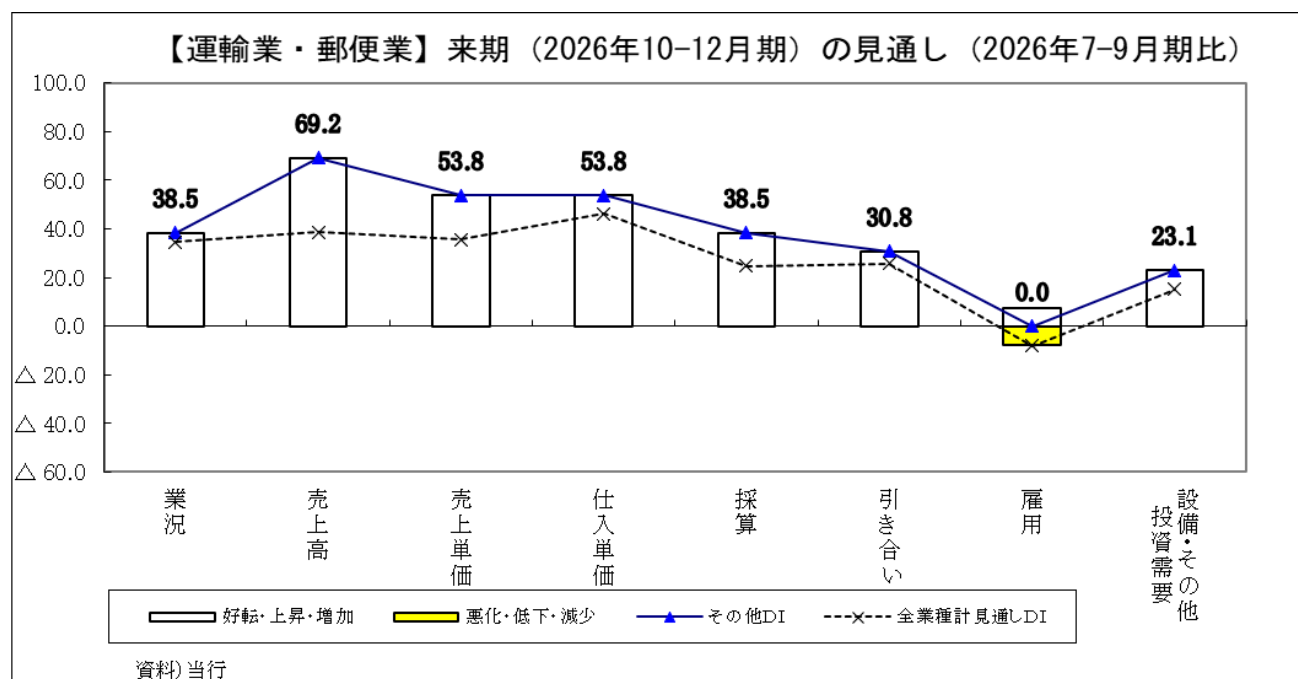


9. 運輸業、郵便業（回答企業：13 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **15.4** となりました。人件費や燃料費などの上昇を背景に、仕入単価（69.2）は高い水準となっています。一部の事業者では価格転嫁が十分に進んでおらず、採算面に課題がみられました。また、雇用（△15.4）はマイナスとなっており、人材不足が続いています。

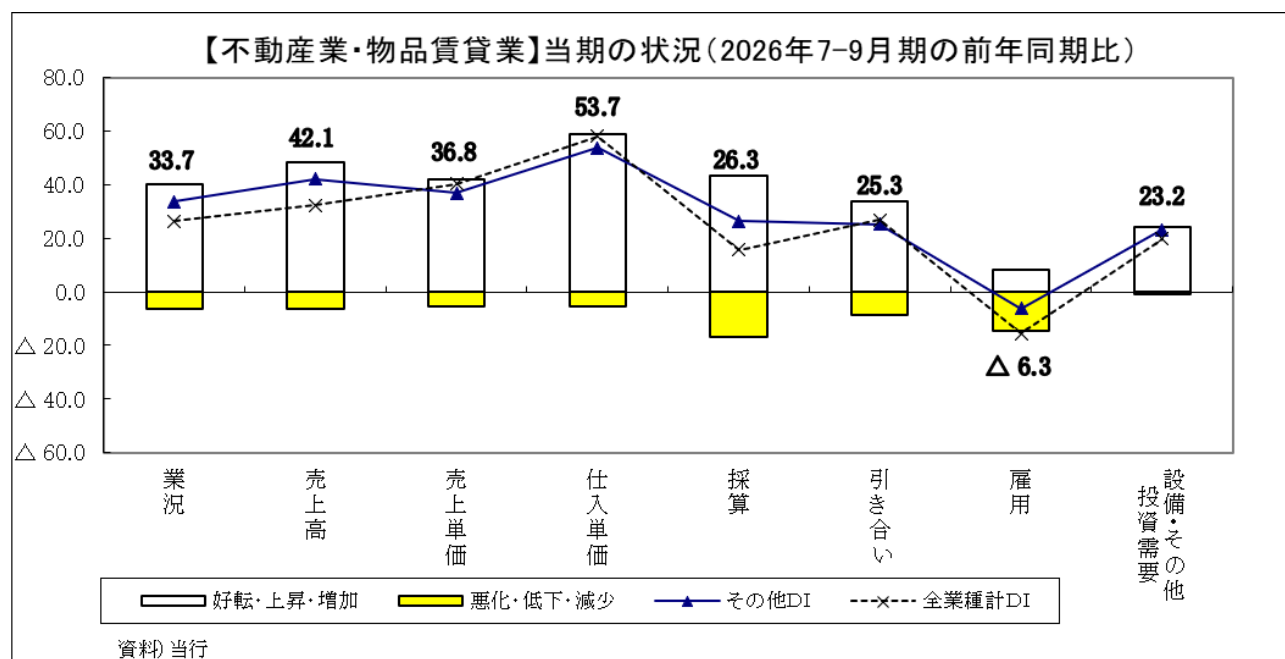


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **38.5** となりました。価格転嫁を予定している事業者が多くみられ、採算は改善する見通しです。また、雇用は採用予定などから改善が見込まれます。

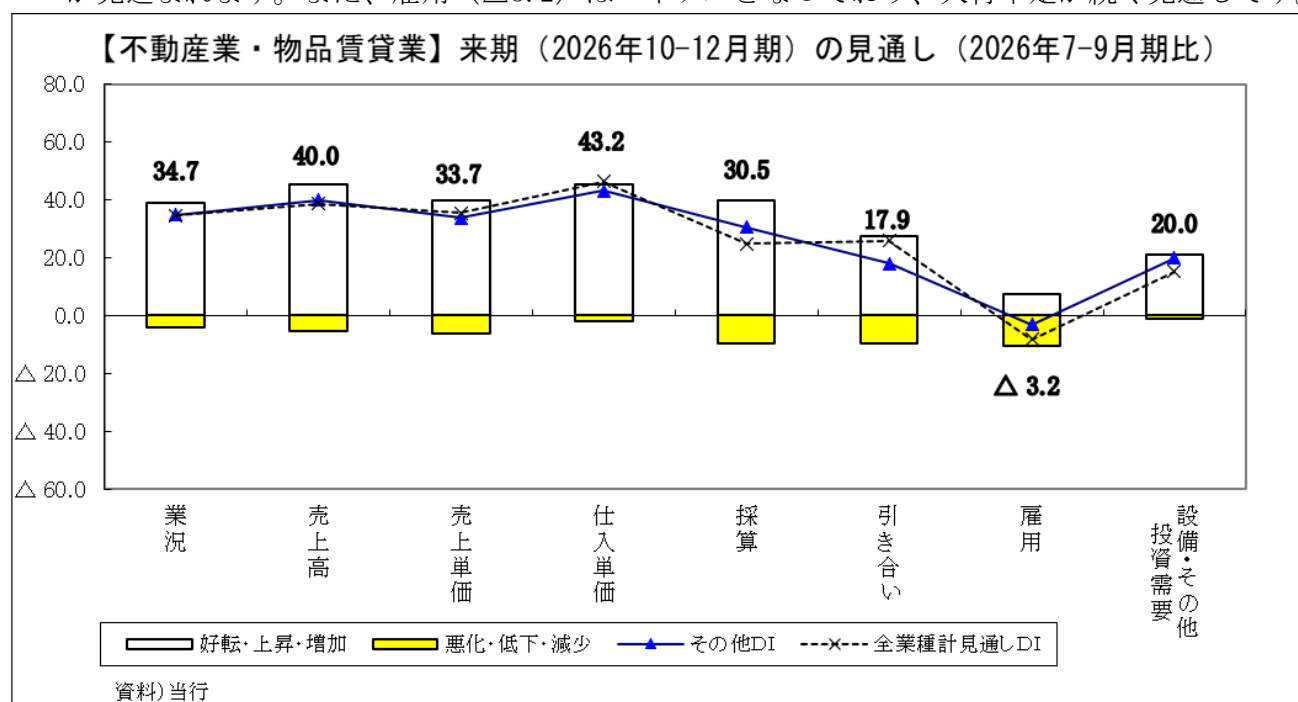


10. 不動産業、物品賃貸業（回答企業：95 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **33.7** となりました。不動産業を中心に、不動産売買価格や家賃の上昇により、売上単価や採算が改善した事業者がみられます。一方で、不動産取引の引き合いは多いものの、物価上昇を背景に仕入単価も上昇しています。

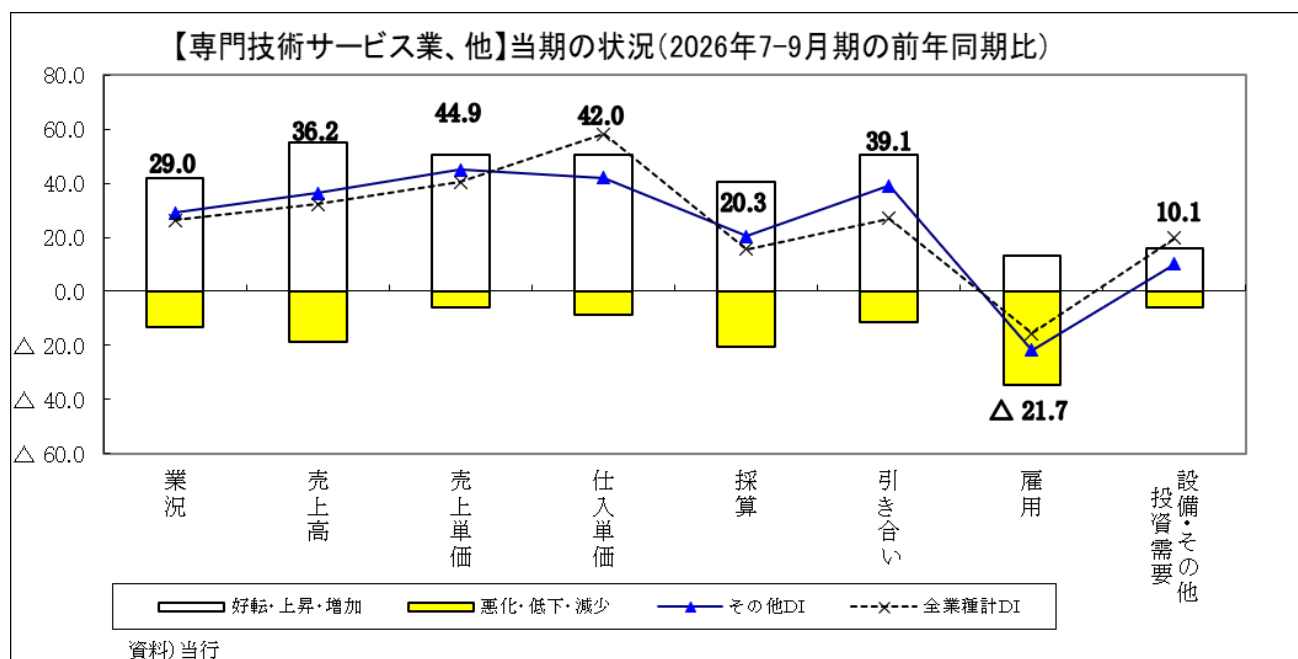


- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **34.7** となりました。売上単価、仕入単価ともに引き続き上昇が見込まれます。また、雇用（ $\Delta 3.2$ ）はマイナスとなっており、人材不足が続く見通しです。

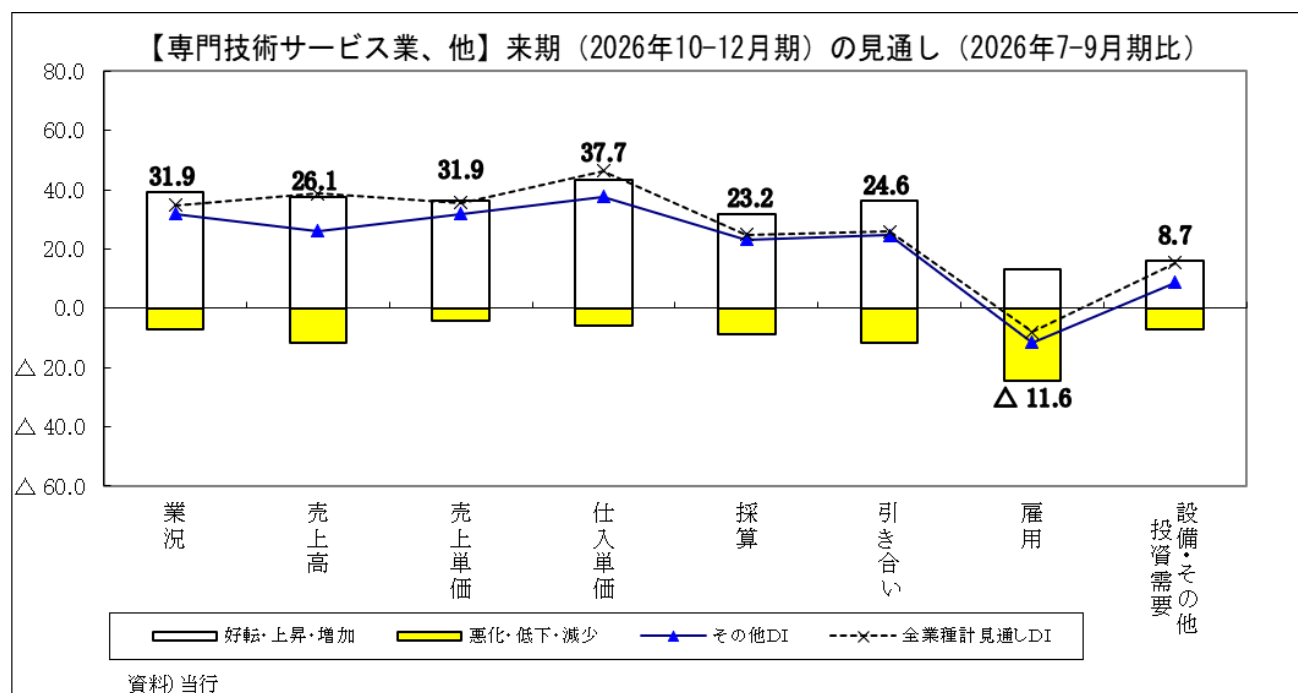


11. 専門・技術サービス業、他（回答企業：69 社）

- 当期の業況 DI（前年同期比）は **29.0** となりました。売上単価や引き合いの増加などにより、売上高（36.2）は改善しています。一方で、仕入単価は上昇が続いており、雇用（△21.7）の人材不足も続いています。



- 来期の見通し業況 DI（当期比）は **31.9** となりました。売上単価の引上げを予定する事業者がみられる一方、仕入単価も上昇する見通しです。また、雇用（△11.6）はマイナスとなっており、人材不足は続く見通しです。



V. まとめ（総括）

➤ 【当期の業況 DI】

当期（2026 年 7-9 月期）の業況 DI は **26.3**（前年同期比）となり、20 期連続でプラスとなりました。項目別では、売上単価の上昇や引き合いの増加などを背景に、業況改善の動きがみられます。一方で、仕入単価の上昇は続いており、採算については業種ごとに差がみられました。また、雇用はマイナスが続いており、人手不足が継続しています。

業種別では、売上単価や引き合いの増加などにより、【不動産業、物品賃貸業】のポイントが高くなりました。また、堅調な入域観光客数を背景に、【その他サービス業（宿泊・飲食等）】も高いポイントとなっています。

一方、中東情勢の影響による物流コストの上昇や燃料費・原材料価格の高騰、原材料の供給不足などを背景に、【建設業】、【製造業】では業況が悪化した事業者もみられました。

加えて、天候不良（台風）などの影響による物流の遅延や、入域観光客数の減少などの影響から【製造業】、【卸売業】、【小売業】、【その他サービス業（宿泊・飲食等）】の一部では業況が下押しされる動きもみられました。

➤ 【来期の見通し業況 DI】

来期（2026 年 10-12 月期）の見通し業況 DI は **34.7**（当期比）となりました。項目別では、売上高や売上単価、採算などで改善が見込まれます。一方で、仕入単価は引き続き上昇する見通しであり、先行きには不透明感が残ります。

業種別では、全業種においてプラスとなっています。【医療・福祉】は報酬単価の改定を背景に業況改善が見込まれます。また、【その他サービス業（宿泊・飲食等）】は堅調な客数増加や売上単価の改善が見込まれ、【情報通信サービス業】は引き合い増加などにより業況改善を見込む事業者が多く、ポイントは高くなっています。